

# 総合的な学習の時間を中心としたグローバル人材を育成する通年単元構想

担当者（代表者） 関戸裕，伊藤雅子，小田誠，上田佳穂，渡辺清子，伊藤陽平，菅原純也

所属 岩手大学教育学部附属小学校

（令和2年3月4日受理）

## 1. はじめに

岩手大学では、グローバルな視点で復興に尽力する学生を育成することを中期目標に掲げている。また、同じように岩手県でも、「いわてグローバル人材育成推進協議会」を設置し、岩手の豊富な資源を積極的に生かし、世界に発信するグローバルな視点を持ち、世界の平和や国際的な課題解決、自立した多文化共生社会の実現を担うことのできる人材の育成を目指している。

これらのことから、我々を取り巻く環境では「グローバル」の視点の重要性が増してきているといえる。この視点は、小さい頃からの地域を愛好する態度や世界を見据えたグローバルな思考を育てることで、大人になった際に社会的事象に対する見方・考え方の一つとして発揮されと考えられる。

そこで、本プロジェクトでは、岩手大学教育学部附属小学校第6学年の総合的な学習の時間において「グローバル人材」を育成するための単元を開発し、実践を通して成果や課題を明らかにしていきたい。

そして、以下のような「グローバル人材（子供）」を育てていきたい。

多様なローカル文化を理解し、グローバルな視点を持ちつつ、地域社会に貢献しようとする子供

例えば、グローバルについて知ったり、自分たちができる活動を考え提案する。そこで身に付けたグローバルの視点を基に、後期から始まる卒業研究でも継続的に個人で追究する。10月の学習旅行では、盛岡と函館を比較しながら、函館のグローバルについて追究し地域に提案していく。最終単元では、1年間の学びを振り返り、中学校以降の自己の生き方について、グローバルの視点を入れながら考えさせていく。

## 2. 研究の重点

本プロジェクトでは、以下の2点を重点として取り組む。

- ①グローバル人材に必要な資質・能力を、総合的な学習の時間の目標と照らしながら明らかにする。
- ②グローバル人材を育成する一年間の単元の構想と授業実践を行う。

## 3. 結果

### （1）グローバル人材に必要な資質・能力

新学習指導要領において、総合的な学習の時間では、「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する。」ことを目指している。

目標の冒頭に示されている「探究的な見方・考え方」には二つの要素が含まれる。一つは各教科における見方・考え方を総合的に働かせることである。二つは、総合的な学習の時間に固有な見方・考え方を働かせることである。固有な見方・考え方とは、特定の教科等の視点だけで捉えきれない広範な事象を、多様な角度から俯瞰して捉える視点であり、課題の探究を通して自己の生き方を問い続けるという考え方である。

この考えをもとに本校では、学習指導要領に示されている資質・能力の3つの柱の中に、以下の4つの能力を位置付け、研究を進めてきた。

思考力・判断力・表現力等	
問 う 力	自己の考えとのずれや隔たり、また、対象へのあこがれや可能性を感じる中から、自分なりのこだわりをもち、追究を進めるための原動力を形成することができる力

追究する力	課題解決のために、適切な活動において自覚的に情報収集し、それをデータとして蓄積する力。収集した情報が正しいかどうか判断し、批判的に整理・分析し思考する力。
表現する力	相手意識や他者意識をもちながら、他者へ伝えたり、自分自身の考えとしてまとめたりする力。伝えるための具体的な方法を身に付けたり、実際の行動を起こしたりしながら表現する力。
学びに向かう力・人間性等	
見つめる力	形成・確立された価値観をもとに、学んだことの意味を自分とのかかわりにおいてとらえ、自己の生き方と結び付けて考えようとする力。

## (2) グローカル人材を育成する単元の構想

### ①単元を通して目指す子供像

一年間の大単元を通した追究するテーマを次のように設定した。

グローバルな人になろう！  
～岩手と世界をつなぐ人～

そして、単元を通して目指す子ども像を以下のような3点に設定した。

- 自分たちの住んでいる盛岡市や岩手県をベースとし、魅力や資源を多様な方へ発信したいという願いをもち、主体的に追究しようとする姿。
- 外国人との関わりの中から、多様なローカル文化を認め、よさに気付き、尊重しようとする姿。
- 探究的な学習のプロセスを繰り返し、感性を働かせながら友達と考えを合わせたり、自分に取り入れられたりして、課題を解決しようとする姿。

### ②単元計画

上記のような子供を育てるために、以下のような計画で5つの単元を構想し、年間を通して取り組むこととした。

- 4月 オリエンテーション
- 5月 単元①「ラグビーワールドカップを盛り上げよう」  
岩手在住のナミビア人の方の講演  
盛岡市役所の方の講義

6月 卒業研究スタート

7月 単元②「ナミビアの方をおもてなししよう。」

9月 ナミビア大使との交流

10月 単元③「グローバルをSDG sの視点で考えよう。」  
SDG s 学習会 学習旅行

11月 家庭教育学級  
SDG s 講演会

12月 単元④「卒業研究発表会」

2月 単元⑤「グローバルセミナー」



ナミビア大使との交流の様子

### ③単元の内容

#### 単元①「ラグビーワールドカップを盛り上げよう」

オリエンテーションを行い「グローバル人材」の意味を知り、岩手県や盛岡市における外国人との関わりに注目させる。ラグビーワールドカップの開催地の一つに釜石市が選ばれていること、ナミビア共和国のホストタウンとして盛岡市が選ばれていることから、ナミビア共和国について人との関わりを通して追究し、遠く離れた外国の生活や文化について学んでいく。

#### 単元②「ナミビアの方をおもてなししよう。」

ナミビア共和国について追究し、そのよさについて学んだことから単元の学習を発展させる。盛岡市がナミビア共和国のホストタウンに選ばれているものの、市民の周知度が低いという事実から問題意識をもち、ナミビア共和国の選手を迎えるために自分たちにできることを考え、行動する。

#### 単元③「グローバルをSDG sの視点で考えよう。」

グローバルについてより深く追究するために、地域社会や世界を見直す視点としてSDG sの視点をもつ。世界共通の到達目標であるSDG sを知ることから始め、盛岡の街づくりを見直したり、学習

旅行において函館市の取り組みから学んだりする。

#### 単元④「グローバルの視点で追究しよう！卒業研究」

これまでに学習したグローバルな視点を基に、盛岡市や岩手県における課題を見出す。個人で取り組む追究課題を設定し、探究活動を行う。地域のために自分はどのような取り組みができるのかを考え、卒業研究発表会で提案する。

#### 単元⑤「グローバルな人とは？グローバルセミナー」

岩手県におけるグローバル人材の方にお話を伺う。今年度は、SDGsの視点から地域の発展に貢献しようとしている方にお話を伺った。自分が一年間行ってきた学習を振り返りながら、小学校を卒業する段階での「未来の自分像」を思い描き表現することで、自分の生き方を考える。

### (3) 実践について

#### 単元①「ラグビーワールドカップを盛り上げよう」

##### ①単元との出会い

子供たちにとって「グローバル」という言葉は初めて聞く言葉であると予想した。そのため今年度は自然に世界へと目が向くようにラグビーワールドカップを題材に設定した。盛岡市が、ナミビア共和国のキャンプ地に選ばれていることから、素直な問いを出し合った。「ナミビアとはどこにあるのか。」「どんな国なのか。」「どうして盛岡が選ばれたのか。」など、たくさんの問いが生まれた。そこで、まずはインターネットで概要を調べる活動を行った。

##### ②ナミビア人の方との交流

インターネットの情報だけでは分からないことを追究するために、岩手県在住のナミビア人の方をゲストティーチャーに招いてお話をいただいた。ナミビア共和国の人々のくらしや伝統文化、観光スポットなどを紹介していただいた。実際にナミビア人の方からお話を聞くことで、ナミビア共和国の魅力に気付き、盛岡市にはないよさを考えることができた。また、ゲストティーチャーが、ナミビア共和国と岩手、盛岡の魅力を両方知っていること。それぞれのよさを認めてつなぐ役割をしたいと願っていることから、「グローバル」の考え方にふれるこ

とができた。

ゲストティーチャーとの出会いをきっかけに、地域と世界をつなぎ、地域に貢献できる人として「グローバル人材」について学んでいくという大きなテーマを設定した。

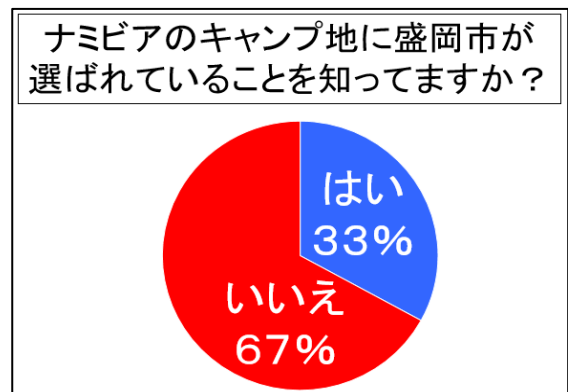


ナミビア人の方の講演の様子

#### 単元②「ナミビアの方をおもてなししよう。」

##### ①単元との出会い（第1単元の発展）

子供たちは、第1単元の追究活動を通して、ナミビア共和国の魅力について知り、どのような国なのかをまとめることができた。その上で、家庭への調査活動を行い、ナミビア共和国の知名度を確かめた。そのお結果、ナミビア共和国について知っている人の少なさを実感した。



家庭への調査結果

盛岡市全体ではどのような状況なのかを知るために、盛岡市役所の方を招いてお話を伺った。盛岡市としても、受け入れのための周知がうまく進んでいないこと。なんとか、ナミビアの選手を歓迎し、もてなしたいと考えていることを知った。





市役所の方から盛岡市の現状を学ぶ様子

## ②ナミビア共和国についての発信活動

子供たちは、ナミビア共和国について盛岡の人に知ってもらいたい、市民が知っている上で歓迎したいという願いをもった。そこで、盛岡市民に向けてナミビア共和国とラグビーワールドカップについて知ってもらうための発信活動を行った。

## ③ナミビアの人に向けたCM動画づくり

盛岡市民に向けての発信活動の後、さらに自分たちにできることを考えた。今度は、盛岡を訪れるナミビア人選手の方や外国人の方に向けて、盛岡の魅力を発信したいと考えた。

外国人に分かりやすく魅力を伝えるためには、映像が有効だと考え紹介動画づくりを行うことにした。プログラミングソフト scratch を用いて画像を編集した。できあがった動画は、ナミビア大使、市役所の方を通じて選手に届けていただいた。



プログラミングで画像を編集する様子

## 単元③「グローバルをSDG s の視点で考えよう。」

### ①学習旅行のねらい

本校では、6年間の学びを生かし、見学や体験を通して見聞を広め、総合的な力を育むことを目的に函館市への学習旅行を行なっている。今年度も、ねらいの一つに「グローバルな視点」を取り入れて活動を設定した。歴史的にも外国との関わりが強く、たくさんの外国人が訪れ魅力を感じる函館市において、どのようなグローバルな取り組みがあるのか追究させたいと考えた。また、函館市が新しくSDG s の視点を取り入れてながら街づくりを行っていることから、グローバルを考える上で大切な視点と考え取り入れることにした。

### ②SDG s 学習会について

あらたにSDG s の視点を取り入れるにあたって岩手県でSDG s を広めるために活動している方をゲストティーチャーに招いて学習会を行った。子供たちは、世界共通の到達目標であるSDG s の考え方について基礎的な知識を学んだ。その後、ゲームを通して、自分たちの行動が世界をつくっていることや、声を上げ協力して問題に取り組む必要があることなどを体験的に学んだ。この体験から新たな視点をもち、盛岡市の街づくりを見直したり、函館市の街づくりから学びたいと考えた。



ゲームを通してSDG s を学ぶ様子

### ③追究活動について

函館市においてどのようなグローバルな取り組みがあるのかを追究するために、以下の3つの活動を設定した。

#### ・自主研修

4人グループでの自主研修を3回設定し、実際に函館の街を歩きながら魅力を追究した。グローバルな視点に立って歴史的建造物や交通などの街の様子を視覚的に捉え、施設の見学を通して歴史的背景を学んだ。また、研修中に会った函館市の方や観光客の方に対して、パンフレットを配り、盛岡市の魅力をPRする活動を行った。

#### ・体験学習

函館市役所やテレビ局、資料館や企業などで体験学習を行ない、人と関わりながら街の魅力を体験的に追究する活動を行った。子供たちは、建造物などのハード面だけではなく、それを維持したり発信したりする人の存在に気付いた。

#### ・街づくりに関わる方の講演

函館市で実際に街づくりに携わる方から函館市のローカルな魅力と、グローバルな取り組みについてお話をいただいた。また、SDGsの考え方や、街づくりへの生かし方についてもお話しいただいた。子供たちは、自主研修や体験学習で見つけた函館市の魅力についてお話の内容と比較しながら確かめることができた。



SDGsの視点をもちながら函館の街づくりを進めているゲストティーチャーによる講演の様子

### 単元④「グローバルの視点で追究しよう！卒業研究」

#### ①卒業研究について

本校では、4年間の総合的な学習の時間のまとめとして「卒業研究発表会」を設定している。これまでに身に付けた探究的な学習の過程「①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現」を踏みながら、個人で追究していった。これに「グローバルの視点」を取り入れ、グローバル人材について学んできたことを基に、地域の魅力を広く発信するという視点で課題を設定したり、地域の課題を広い視野から俯瞰して捉え、解決の方法を考えたりすることをねらいとした。

#### ②テーマ設定について

子供の追究課題（テーマ）を設定するにあたって以下の4点を視点として示し、地域を「岩手」に限定した。

- A. 県産品販路開拓人材育成プログラム
- B. ものづくり産業海外展開人材育成プログラム
- C. 交流人口拡大促進人材育成プログラム
- D. 持続可能型地域づくり産業人材育成プログラム

これは、岩手県が目指す「グローバル人材育成プログラム」と合致するものであり、この単元までに「グローバル人材」について学んできたからこそ、テーマ設定の視点として捉えられるものである。

子供たちが実際に取り組んだテーマは以下のようである。

- ・「岩手の山ぶどう～山ぶどうワインを広めよう～」
- ・「地域の交通岩手銀河鉄道」
- ・「岩手のよさをホヤから発見！」
- ・「盛岡市に残したい和風の文化」
- ・「レッツ エンジョイ 動物公園の魅力」
- ・「猫にも人にも住みよい街づくり」

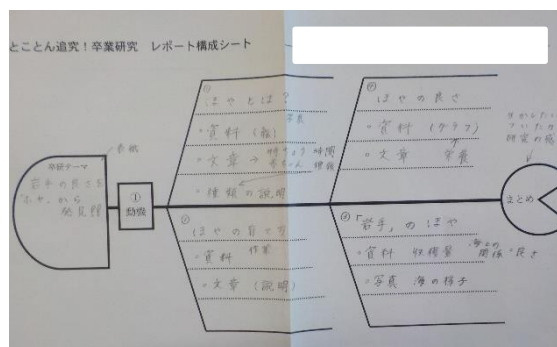
#### ④発表の様子

子供たちは約6カ月という長い追究活動を通して自分なりにまとめたことについて、7分間のプレゼンテーションを行った。

## 【発表例1】

追究課題「岩手のよさをホヤから発見！」

このテーマは、「A. 県産品販路開拓人材育成プログラム」にあたる。岩手県の特産品であるホヤに注目し、育成方法や岩手ならではの味の魅力について漁師さん取材して学んだことを中心にレポートにまとめた。レポートにまとめる際には、集めた情報を付箋に書いて整理したり、フィッシュボーン図に書き出して構成を練ったりした。発表会では、ホヤの殻むきの実演なども行いながら、聞く人を惹きつけることができた。



レポートの構成を考えるフィッシュボーン図

## 【発表例2】

追究課題「レッツ エンジョイ 動物公園の魅力」

このテーマは、「C. 交流人口拡大促進人材育成プログラム」にあたる。自分の大好きな盛岡市動物公園の利用者数が、年々減少していることに問題意識をもち、動物公園の現状について見学やインタビューを通して細かく調べた。幅広い年齢層が利用しやすい環境整備を提案することができた。この発表は、動物公園の園長さんも参観し、提案を参考にしたとおっしゃっていた。



資料を提示しながら発表する様子

## 単元⑤「グローバルな人とは？グローバルセミナー」

## ①活動のねらい

一年間を通して探究してきた「グローバル人材になろう！」のまとめとなる単元である。これまでの学習を振り返り、「グローバル人材」について学んできたことをまとめると共に、卒業する自分の今までの生活やこれからの生き方を見つめ直し、中学校への希望や意欲を醸成させたいと考えた。また、10年後、20年後の将来を見据え、「働く」ということについて現時点での考えをもたせたいと考えた。そこで、グローバルな取り組みをSDGsの視点を持ちながら行なっている方からのお話を聞いたり、職業について調べたりして追究し、小学校を卒業する段階での「未来の自分像」を思い描き表現することで、自己の生き方を見つめさせたいと考え設定した。

## ②ゲストティーチャーのお話から

岩手県に在住し、SDGsの視点を取り入れながら地域の活性化に貢献している方をゲストティーチャーに招いた。

## 【二戸市馬場農場 馬場淳さん】

二戸市浄法寺で農業を営んでいる馬場さんに講演をいただいた。馬場さんは、二戸市の人口が年々減少していることに問題意識をもち、浄法寺の風土を生かした農業で地域を活性化させたい、働きがいのある魅力的な職場を地域に創りたいと考えていた。ヨーロッパ各地を視察し、地域活性化のヒントを得ていた。ぶどうに高級ワインとしての付加価値をもたせることで地域を活性化させたり、クリーンエネルギーによる発電で街を活性化させたり、地域の特性を生かした挑戦について学ぶことを通して、ホワイトアスパラの生産にたどり着いた。現在は、二戸市浄法寺にしかない魅力の一つに数えられる特産物となっている。





ゲストティーチャーの講演の様子

子供たちは、ゲストティーチャーの生き方から、「失敗を恐れずに新しいことに挑戦すること」「広い視野から物事を見ること」「一つのことに全力を尽くすこと」などを学んだ。この学びを生かし、自分の夢や希望を実現させるために必要なことを考えた。



ホワイトアスパラを試食する様子

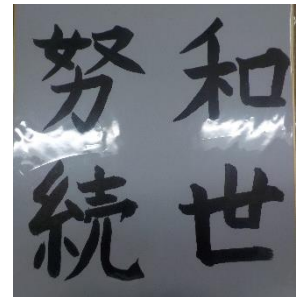
### ③大切にしたい言葉発表会

「働く」ということについて、将来就きたい仕事の概要を調べたり、家族の仕事を調査したり、ゲストティーチャーの講演を聞いたりして学んだことを基に、今後の自分の理想の姿を考えた。そして、自分の夢を実現するために、どのようなことが大切なのかを考えた。そこからオリジナルの四字熟語に表し、中学校に向けた決意を発表した。子供たちが考えた四字熟語の文字の中には、世界の「世」、持続の「続」など、グローバルについて学んできたことが反映されていた。



決意を四字熟語に表して発表する様子

子供の考えたオリジナルの四字熟語。人と調和を大切にしながら夢に向かって努力したいという思いと、持続可能な平和な世界に貢献できる人になりたいという思いが込められている。



## 4. まとめ

小学校6年生という時期に、「グローバル人材」について学び、広く世界に目を向けてみる経験をしたことや、地域の魅力や自己の生き方を見つめ直したことは、子供たちにとって大変有効だったと考える。

### ①グローバル人材に必要な資質・能力について

#### 【問う力】

子供たちがこれまでに知らなかった「グローバル」という言葉や考え方を知り、ラグビーワールドカップをきっかけにして、今までにふれることのなかった外国に興味・関心をもつことができた。外国の生活や文化のよさを認め、尊重しようとする態度を育てることができた。周知度の低さという盛岡市の抱えていたオーセンティックな課題に取り組むことにより、地域の魅力や資源をより広い視野から見直し、課題を見つけ、自分なりのこだわりをもって追究するための言動力を醸成できた。

#### 【追究する力】

SDGsを学び、新たな視点で地域を見直すことにより、卒業研究や学習旅行でも人と関わ

りながら情報収集し、蓄積することができた。卒業研究では、ピラミッドチャートやフィッシュボーン図などの思考ツールを用いながら情報を整理・分析し、設定した課題に対して自分なりの考えをもつことができた。

#### 【表現する力】

これまでの学習単元に「グローバルな視点」や「SDGsの視点」を取り入れたことや、実際に外国の方と関わって学んだことにより、ローカルな魅力や資源を、広くグローバルに伝えるという考えに立って表現することができた。

#### 【見つめる力】

一年間を通して「グローバルな人になろう！」をテーマに追究し、人と関わりながら学習を進めたことにより、「広い視野に立って物事を見る」という価値観が育った。また、世界共通の到達目標であるSDGsについて知ったことにより、一人一人の行動が世界とつながるという視点をもつことができた。見方・考え方が狭くなりがちな子供にとって「グローバル」に物事を考えることは、今後、自分の生き方を選択していく上でも一つの重要な視点になると考える。

### ②グローバル人材を育成する単元の構想と授業実践

単元構想と授業実践については前項で記述したように、一年間の大きなテーマをもちながら、各単元の目標や育てたい資質・能力を考えて実践してきた。年度当初は、「グローバル人材とは、どのような人なのか。」という問いに答えられなかった子供たちも、現在では、「地域の魅力を世界に広く発信する人」「地域と世界をつなぐ人」など、自分なりの解をもって説明できるようになっている。また、SDGsについても学習することで、自分たちの行動が世界の問題解決につながることや、より広い視野から地域社会や自己の行き方を見つめ直すことができた。一年間という長いスパンでテーマを設定したことや、外国人との関わりの中から世界に目を向けさせたことが有効であったと考える。

今後の課題としては、「グローバル人材」をより

具体的にイメージできるようにすること。子供が本当に追究したくなるような出合わせ方を検討すること、子供が試行錯誤しながら考えを練り直せるような幅をもった単元構想をすることなどが挙げられる。子供たちにとって価値のある題材であるため、追究の意欲が持続し、主体的に学び続けられるような手だてを取っていきたい。

#### 謝辞

本研究を進めるにあたり、ご協力いただいた岩手県国際交流協会、盛岡市役所市民課をはじめとする関係機関の皆様、本校の子供たちに感謝いたします。

また、日常の議論を通じて多くの知識や示唆を頂いた附属小学校総合的な学習の時間（わかたけ）研究部の皆様、学年の先生方に感謝します。